# 科学研究費補助金研究成果報告書

平成 22 年 6 月 16 日現在

研究種目:基盤研究(B)研究期間:2007~2009課題番号:19340104

研究課題名(和文) 強相関 f 電子系研究のプルトニウム化合物への発展

研究課題名(英文) Strongly Correlated f-Electron Study in Plutonium Compounds

### 研究代表者

芳賀 芳範 (HAGA YOSHINORI)

独立行政法人 日本原子力研究開発機構・先端基礎研究センター・主任研究員

研究者番号:90354901

#### 研究成果の概要(和文):

プルトニウムを含む超ウラン元素に関して、従来行われて来た固体物性研究の手法を適用し、新物質探索と新現象発見を目的とした。プルトニウムに関して、その強い放射能による試料の損傷を回避するために、長寿命同位体原料 $^{242}$ PuO $_{2}$ を用い、金属間化合物を作製する手法を開発し、PuPd $_{5}$ Al $_{2}$ の作製に成功した。ネプツニウムでは、新物質NpPd $_{5}$ Al $_{2}$ を発見し、 $_{5}$ f電子による重い電子状態が超伝導を引き起こす事を見いだした。

#### 研究成果の概要 (英文):

This project aims to find new materials and new phenomena in actinide compounds including plutonium, which is difficult to handle experimentally because of its radiation. We developed a sample preparation method using a long-life isotope of  $^{242}\text{Pu}$  to enable the precise physical property measurements and succeeded to prepare intermetallic compound  $PuPd_5Al_2$ . We also found a new compound  $NpPd_5Al_2$  which showed superconductivity due to 5f-based heavy electron states.

# 交付決定額

(金額単位:円)

	直接経費	間接経費	合 計
2007 年度	4,000,000	1,200,000	5,200,000
2008 年度	3,300,000	990,000	4,290,000
2009 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
年度			
年度			
総計	8,600,000	2,580,000	11,180,000

研究分野:物性 II

科研費の分科・細目:強相関系 キーワード:アクチノイド科学

### 1.研究開始当初の背景

アクチノイドの5f電子は、物質中で様々に 状態を変え、多様な現象を引き起こす。ただ しこれらはいずれも核燃料物質または放射 性同位元素として規制を受け、その取扱には 様々な規制が伴う上、専用の施設が必要とさ れる。そのため、物性研究対象として盛んに 研究が行われたのはウラン及びその化合物 だけであった。2002年以降、Pu化合物でかなり転移温度の高い超伝導体が発見される等、超ウラン化合物が示す特異な物性が報告された。これらの挙動は、5f電子によって特徴づけられており、希土類4f電子系で長年にわたって研究されて来た重い電子状態や異方的超伝導など固体物性として興味深い現象と同等あるいはそれ以上に新規な状態が実現することが明らかとなってきた。

## 2. 研究の目的

本研究では、プルトニウムをはじめとする 超ウラン元素研究を、通常の物質と同程度の 精度にまで高めることにより、その本質を探 ることを目的としている。特に、希土類 4f 強相関電子系研究で培われた実験手法や概 念を可能な限り超ウラン化合物に適用する。 一方、超ウランを対象とした物質探索は始まったばかりであり、新物質や新現象の発見が 期待される。これを達成するために、結晶構 造や組成などの試料評価技術を確立し、制御 された純良単結晶により本質を明らかにする。

#### 3. 研究の方法

試料作製、試料評価及び物性測定のそれぞ れについて超ウランに対応する技術開発を 行う。原料が貴重である超ウランの参照物質 として、希土類及びウランを用いて、基礎技 術を開発し、これを超ウランに適用する。超 ウランのうち、プルトニウムは、原子力機構 の原子力基礎工学研究部門の協力を得て、プ ルトニウム燃料調整設備を使用して実験を 行った。また、従来は比較的原料を入手しや すい <sup>239</sup>Pu を出発物質とした試料作製が行わ れていたが、高放射能のため試料に損傷を与 える上、低温での自己発熱が問題であった。 これを回避するために、長寿命核であり、さ らに貴重な 242PuO2を出発物質として、金属 への還元プロセス及び金属間化合物の作製 技術の開発を行う。

ネプツニウムに関しては、東北大学塩川教授が開発したアマルガム電解法が適用可能である。これを用いて、東北大学金研(大洗)においてネプツニウム化合物の単結晶育成を行った。

試料の評価は、主として EPMA による組成分析と、単結晶 X 線回折による構造解析を行った。後者については、試料を密封化することにより、ネプツニウム及びプルトニウム化合物の実験が可能となった。

物性測定には、強相関系で一般的に行われるバルク物性測定を適用するが、いずれも試料を密封する必要があり、限られた空間で測定を行えるようなシステムを構築する。

## 4. 研究成果

<sup>242</sup>PuO<sub>2</sub> の還元方法として、貴金属を用いた coupled-reduction 法を採用した。一般に、アクチノイドは極めて還元しにくい元素であり、溶融カドミウム金属中での電解やカルシウム金属との高温反応が用いられるが、いずれも媒質の混入・分離が問題である。そこで、今回は目的物質として新物質 PuPd5A12 を選択し、これに含まれる Pd 金属を還元剤として使用した。水素雰囲気での高温加熱により、酸化物を原料として PuPd5A12 を合成する事に成功した。

Np 化合物では、従来ウランに適用して来たフラックス法を使用した物質探索を行った。その結果、これまで全く知られていなかった新物質 NpPd5A12 を見いだした。この物質は5f 電子に起因する重い電子状態を示し、さらに低温でこれらが超伝導に転移する極めて興味深い物質である事が明らかとなった。この物質が引き金となり、希土類及びアクチノイドで同形の物質が次々に見つかり、物質探索の重要性が改めて認識された。

物性測定技術開発として、超ウランを対象 とした低温高磁場磁化測定装置の開発を行 い、これを重い電子系超伝導体NpPd5Al2の物 性研究に適用した。放射性物質を密封状態で 感度よく測定するために、密封型キャパシタ ンスファラデー法により装置を設計、製作し た。同手法は、希土類系重い電子系の磁化測 定に適用されている手法であるが、これを小 型化・密封型に改良して、超ウラン及び放射 性物質の測定を可能とした。0.3 mg程度の微 小試料について、高磁場領域では市販の SQUID磁化測定装置に匹敵する感度で測定 することが可能となった。NpPd5Al2は極めて 大きな常磁性効果で特徴づけられる重い電 子系超伝導体である。常伝導状態の磁化は、 キュリーワイス則に従い、その有効磁気モ-メントはNp自由イオンに近い値を示す。一方 超伝導状態では、超伝導反磁性の寄与以外に 常磁性磁化そのものが減少する。また、超 伝導混合状態での磁束のピニングによるヒ ステリシスが顕著に観測された。

以上の研究により、プルトニウム及び超ウラン化合物の物性研究が、通常の物質と同程度の精度で可能となった。また、超ウラン系に新物質とそれに伴う未知の現象が隠されていることが改めて認識された。これらの知見は、アクチノイドの電子状態の理解をより深めると期待され、将来の核燃料サイクルでのアクチノイド元素の挙動解析に生かされると思われる。

### 5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に は下線)

# [雑誌論文](計 54 件)

- N. Metoki, K. Kaneko, S. Ikeda, H. Sakai, E. Yamamoto, Y. Haga, Y. Homma and Y. Shiokawa, Neutron Scattering Study on U-Dichalcogenides, IOP Conf. Series: Materials Science and Engineering 9 (2010) 012088.
- S.-Y. Kim, .K. Takao, Y. Haga, E. Yamamoto, Y. Kawata, Y. Morita, K. Nishimura and Y. Ikeda, Molecular and Crystal Structures of Plutonyl (VI) Nitrate Complexes with N-Alkylated 2-Pyrrolidone Derivatives: Cocrystallization Potentiality of UVI and PuVI, Crystal Growth & Design 10 (2010) 2033.
- Y. Homma, D. Aoki, <u>Y. Haga</u>, R. Settai, H. Sakai, S. Ikeda, <u>E. Yamamoto</u>, A. Nakamura, Y. Shiokawa, T. Takeuchi, H. Yamagami and Y. Onuki, Fermi Surface Properties of Paramagnetic NpCd11 with a Large Unit Cell, IOP Conf. Series: Materials Science and Engineering 9 (2010) 012091.
- Y. Haga, Y. Homma, D. Aoki, S. Ikeda, T. D. Matsuda, N. Tateiwa, E. Yamamoto, A. Nakamura, K. Nakajima, Y. Arai, F. Honda, R. Settai and Y. Onuki, Magnetism and Superconductivity in the new Family of Actinide Compounds: AnPd5A12, IOP Conf. Series: Materials Science and Engineering 9 (2010) 012046.
- S.-i. Fujimori, T. Ohkochi, T. Okane, Y. Saitoh, A. Fujimori, H. Yamagami, <u>Y. Haga</u>, <u>E. Yamamoto</u> and Y. Onuki, Angle Resolved Photoemission Study on Uranium Compounds, IOP Conf. Series: Materials Science and Engineering 9 (2010) 012045.
- H. Chudo, H. Sakai, Y. Tokunaga, S. Kambe, D. AOKI, Y. Homma, <u>Y. Haga, T. D. Matsuda</u>, Y. Onuki and H. Yasuoka, Anisotropic Spin Fluctuations in Heavy-Fermion Superconductor NpPd5AI2, J. Phys. Soc. Jpn. 79 (2010) 053704.
- Y. Tokunaga, S. Kambe, H. Sakai, H. Chudo, T. D. Matsuda, Y. Haga, H. Yasuoka, D. Aoki, Y. Homma, Y. Shiokawa and Y. Onuki, 31P-NMR Study of Hyperfine Interactions and Magnetic Fluctuations in the Neptunium-Based Filled Skutterudite

- NpFe4P12, Phys. Rev. B 79 (2009) 054420.
- H. Sakai, S. Kambe, Y. Tokunaga, H. Chudo, Y. Tokiwa, D. Aoki, <u>Y. Haga</u>, Y. Onuki and H. Yasuoka, Localized 5f Antiferromagnetism in Cubic UIn3: 115In-NMR/NQR Study, Phys. Rev. B 79 (2009) 104426.
- S. Ikeda, H. Sakai, N. Tateiwa, T. D. Matsuda, D. Aoki, Y. Homma, E. Yamamoto, A. Nakamura, Y. Shiokawa, Y. Ota, K. Sugiyama, M. Hagiwara, K. Kindo, K. Matsubayashi, M. Hedo, Y. Uwatoko, Y. Haga and Y. Onuki, Possible Existence of Magnetic Polaron in Nearly Ferromagnetic Semiconductor -US2, J. Phys. Soc. Jpn. 78 (2009) 114704.
- R. Okazaki, Y. Kasahara, H. Shishido, M. Konczykowski, K. Behnia, <u>Y. Haga, T. D. Matsuda</u>, Y. Onuki, T. Shibauchi and Y. Matsuda, Flux Line Lattice Melting and the Formation of a Coherent Quasiparticle Bloch State in the Ultraclean URu2Si2 Superconductor, Phys. Rev. Lett. 100 (2008) 037004.
- Y. Haga, A. Oyamada, T. D. Matsuda, S. Ikeda and Y. Onuki, Crystal structure of frustrated antiferromagnet UNi4B, Physica B: Condensed Matter 403 (2008) 900.
- Y. Haga, T. D. Matsuda, S. Ikeda, E. Yamamoto, N.D. Dung and Y. Onuki, Crystal Structure and Magnetic Properties of New Ternary Uranium Compound U2/3Pd2AI5, J. Phys. Soc. Jpn. 77 Suppl. A (2008) 365.
- Y. Haga, D. Aoki, Y. Homma, S. Ikeda, T. D. Matsuda, E. Yamamoto, H. Sakai, N. Tateiwa, N.D. Dung, A. Nakamura, Y. Shiokawa and Y. Onuki, Crystal Structure and Magnetic Properties of the new Ternary Actinide Compounds AnPd5A12 (An = U, Np), J. Alloys. Compds. 464 (2008) 47.
- H. Chudo, H. Sakai, Y. Tokunaga, S. Kambe, D. Aoki, Y. Homma, Y. Shiokawa, <u>Y. Haga</u>, S. Ikeda, <u>T. D. Matsuda</u>, Y. Onuki and H. Yasuoka, 27AI NMR Evidence for the Strong-Coupling d-Wave Superconductivity in NpPd5 AI2, J. Phys. Soc. Jpn. 77 (2008) 083702.
- H. Yamagami, D. Aoki, <u>Y. Haga</u> and Y. Onuki, Electronic Band Structure and Fermi

Surface of Heavy-Fermion Neptunium Superconductor NpPd5A12, J. Phys. Soc. Jpn. 76 (2007) 083708.

D. Aoki, <u>Y. Haga</u>, <u>T. D. Matsuda</u>, <u>N. Tateiwa</u>, S. Ikeda, Y. Homma, H. Sakai, Y. Shiokawa, <u>E. Yamamoto</u>, A. Nakamura, R. Settai and Y. Onuki, Unconventional Heavy-Fermion Superconductivity of a New Transuranium Compound NpPd5Al2, J. Phys. Soc. Jpn. 76 (2007) 063701.

### [学会発表](計 30件)

Unconventional magnetism and superconductivity in the ternary actinide compounds AnPd5Al2 (invited)

Y. Haga

International Conference on Strongly Correlated Electron Systems Santa Fe, USA, July 1, 2010

重い電子系超伝導体 NpPd5Al2 の磁気熱量効果

芳賀芳範他

日本物理学会 2010 年年次大会 (岡山大学)

New compounds in actinide-based intermetallic system and physical properties (invited)

Y. Haga

The Third International Workshop on Dual Nature of f-Electrons Dresden, Germany, May 27, 2010

Exotic magnetism and superconductivity in actinide compounds (plenary)

Y. Haga

Actinides 2009

San Francisco, USA, July 14

Magnetism and superconductivity studies of actinide compounds using high-quality single crystal growth (invited) Y. Haga

The International Workshop on Exotic States in Materials with Strongly Correlated Electrons Sinaia, Romania, Sept. 10, 2007

High pressure study on the strong coupling superconductivity in non-centrosymmetric compound  $CeIrSi_3$  (invited)

N. Tateiwa

Magnetic and Superconducting Materials

Khiva, Uzbekistan, Sept. 25, 2007

超ウラン化合物で実現する重い電子系超 伝導

芳賀芳範

物性研究所 50 周年記念シンポジウム 柏市、平成 19 年 11 月 29 日

Crystal structure of UNi<sub>4</sub>B

Y. Haga

International Conference on Strongly Correlated Electron Systems Houston, USA, May 14, 2007

[図書](計0件) [産業財産権] 出願状況(計0件)

名称: 発明者: 権利者: 種類:

番号: 出願年月日: 国内外の別:

取得状況(計0件)

名称: 発明者: 権利者: 種類: 番号: 日月日: 国内外の別:

[その他]

プレス発表

「ネプツニウム化合物で初めての超伝導を発見」平成 19 年 5 月 25 日、東北大学金研・日本原子力研究開発機構・大阪大学による共同発表

#### 6. 研究組織

(1)研究代表者

芳賀 芳範 (HAGA YOSHINORI)

日本原子力研究開発機構・先端基礎研究セ

ンター・研究主幹 研究者番号:90354901

(2)研究分担者

山本 悦嗣 (YAMAMOTO ETSUJI)

日本原子力研究開発機構・先端基礎研究セ

ンター・副主任研究員 研究者番号:50343934 立岩 尚之(TATEIWA NAOYUKI)

日本原子力研究開発機構・先端基礎研究セ

ンター・副主任研究員 研究者番号:50346821

松田 達磨(MATSUDA TATSUMA)

日本原子力研究開発機構・先端基礎研究セ

ンター・研究員

研究者番号:30370472

(3)連携研究者

( )

研究者番号: